

ドイツ・ハノーバー市 Jan-Alexander Dau

今年は、広島と長崎に原子爆弾が投下されてから74年目を迎えます。74年前、これら2つの大量破壊兵器の使用により、広島と長崎は一瞬のうちに廃墟と化し、世界は変わりました。今日でも被爆者の皆さんは、彼らや愛する人の生活にもたらされた影響に苦しんでいます。しかし、年月は流れ、その恐怖を実際に体験して証言できる人も、彼らの記憶も失われつつあります。来年の75年目、100年目には、誰が私たちに、1945年、8月6日、8月9日の出来事を語ってくれるのでしょうか。私たち未来の世代に、誰が、この非人道的な出来事を繰り返さないよう伝えてくれるのでしょうか。

私たち若者は、これらの記憶を風化させることなく、活かしつつける義務があります。この義務を果たすため、13を超える都市の若者が広島に集結し、今年の青少年国際平和未来会議に参加したのです。私たちは、世界に影響を与えている現在の問題について議論し、将来の持続可能な平和のための解決策を一緒に模索しました。

私たちは、平和を育むことを核とした教育が何にも代え難いという結論に達しました。しかし、幸いなことに戦争を経験したことのない私たちの世代にとって、戦争からの繁栄は理解しがたいのです。その裏側は、私たちにとって未知の世界であり、経緯も分かりません。そのため、平和の考えは、みんなが個人的に伝え、理解しなければなりません。いくら社会の教育が高度であろうと、多様性に富んでいようと通常の学校教育だけでは、十分ではありません。個人的な経験から形成された意見は心に残り、信念をもって誰かを動かすことができるのです。

それがまさに、継続的な異文化交流が必要な理由です。しかし、プログラム、観光、セミナーのお決まりの手順に則った異文化交流はありません。そして、自分のなじみのグループや環境を離れずにできる異文化交流もありません。2、3日で終わるような異文化交流もありません。私たちが必要としているのは、数日間、没入できるような体験です。会議の参加者との距離を縮め、いつもの基準は捨て、新しい世界に入らなければなりません。交流というのは、2、3日で忘れてしまうのではなく、長期間にわたり心に刻まれるものです。自分自身の文化的理解を刻み、そこから世界の平和維持につながっていくのです。

IYCPF2019は、まさにそのような機会を私たちに与えてくれました。参加国の文化について深く知ることができ、文化の相違点や類似点を包括的に理解できました。これをベースにして、私たちは持続可能で信頼性の高いコミュニケーション・ネットワークを目指し、戦略を立てました。そのネットワークを使って、アイデアを出したり、私たちの故郷や世界中で平和のコミュニティを作ったりできるようになります。私たちは平和の考えや、核兵器のない世界を作るための細やかな解決策を広めたいと考えています。私たちは全員、異なる年代で、国、宗教をバックグラウンドに持っています。しかし、それでも、世界平和への願いが、私たちの考えや行動を結び付けてくれたのです。

これまでのところ、私たちは全員が密に連絡を取り合っており、新しいネットワークを維持しています。また、現状についての情報交換をし続けています。会議で出たアイデアと、みんなで作成した「青少年平和アピール」を実行し、さらに私たちのネットワークで発展させていきます。より多くの人々が私たちの活動に興味をもってくれるようお願い、私たちの最終成果は、私たちのコミュニティで報告します。また、それぞれの活動成果は、来年の会議の更なる成功につながると思います。今後、IYCPFに参加する若者は、私たちの今までの活動をベースにして、私たちが今まででそうしてきたように、大量破壊兵器のない平和な世界へ突き進んでくれるでしょう。

このようなアイデアのフォローアップとして、ハノーバーで、相互文化理解に関する平和活動をおこないました。私たちは地元の友好サークルで映画(エターナル・ゼロ)を上映し、私たち自身の先祖がわかるような家系図を作成しました。その後、それぞれの民族の類似点を見つけ、話し

合いました。更に、会議は、ロシア、日本、ドイツで電話会議をおこない、実施した平和活動について報告し、新しいプロジェクトのアイデアを話し合いました。来週の月曜日、平和首長会議理事会がハノーバーで開催され、私も参加する予定です。また、今年のIYCPFの私の報告書をドイツ平和首長会議2020に提出します。

あらゆる世代が協力して、モチベーションを上げていきましょう。広島と長崎の悲劇が二度と繰り返されないようにするのは、そして、明日の世界から核兵器を無くしましょう。平和な世界を未来に築くのです。